

めでいかすとり Médicastre



「 スキー同好会 」

日医学校保健講習会

期 日：平成 25 年 2 月 24 日 (日)
場 所：日本医師会館

平成 24 年度学校保健講習会に参加して

鶴岡市立荘内病院 小児科
伊藤 末志

昨年度までは、母子保健講習会と学校保健講習会が土日で連続して開催されていましたが、土曜日の朝からの講習会には参加できないという会員からの申し立てが多く、今年度からそれぞれが日曜日開催となりました。連続して日曜日に出かけるわけにもいかず、今回は 2 月 24 日開催の学校保健講習会にだけ参加しました。以前も寒波の襲来で交通がマヒした記憶が新しいものとしてありますが、今回も飛行機は飛ばず、“いなほ”は動かずで大変な思いをしての参加でした。

横倉日本医師会会長は日本学校保健会会長も兼ねていますが、冒頭で「会場の外は天気良好ですが…（皆さんは勉強ご苦労様です）」と北日本の気象状況を全く無視した挨拶で始まりました。

午前の部は講演 2 題で、始めは「最近の学校健康教育行政の課題について」と題して、文科省スポーツ・青少年局学校保健教育課の専門官のお話がありました。課題として挙げられたものは①学校における感染症対策、②学校におけるアレルギー疾患への対応、③児童生徒の健康診断の 3 つです。①感染症対策としては、昨年 4 月に施行の「学校保健安全法施行規則の改正」で (i)結核検診の方法の見直し、(ii)学校において予防すべき感染症の見直し、があったことであり、昨年度と同講習会でもすでに予告されていた事柄であります。結核検診における問診票の取り扱いでは、特に「家族などの結核罹患歴」と「高蔓延国での居住歴」の 2 項目に注意を払うこと。従来は結核の推定罹患率が高く、人口が多い 22 か国を“結核高蔓延国”としていましたが、今後は総人口が少なくと

も、推定罹患率が高い国・地域を“結核高蔓延国”として取り扱うようになりました。これにより、香港、韓国、台湾、モンゴルなども新たに“結核高蔓延国”の扱いになりました。予防すべき感染症に「髄膜炎菌性髄膜炎」が第二種感染症として追加されました。出席停止期間が改正された第二種感染症についても、昨年度と同講習会で予告されていましたが、インフルエンザ、百日咳、流行性耳下腺炎について再度確認がなされました。②学校におけるアレルギー疾患への対応については、平成 20 年 4 月発行の「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」を参照して対応していただいています。文科省の報告では、児童生徒全体のアレルギー疾患有病率は、気管支喘息：5.3%、アトピー性皮膚炎：5.5%、アレルギー性鼻炎：9.2%、アレルギー性結膜炎：3.5%、食物アレルギー：2.6%、アナフィラキシー：0.14%となっており、学校に、クラスに、アレルギー疾患の子どもは多数います。しかし、アレルギー疾患への対応は、「特別な子どもへの配慮」ではなく、「一般的に行う」こととされています。また、食物アレルギーの小学生が除去食対応されていたにもかかわらずアナフィラキシーを起こし、教職員が本人のエピペンで対応したのに死亡した例の詳細が報告されました。学校全体として取り組む体制の必要性を強調していますが、このような例はいかんともしがたいと思われました。

講演の 2 題目は、いじめられる側からみた「いじめについて」で、講師は NPO 法人「いじめから子供をまもろう！ ネットワーク」代表の井澤一明さんです。2007 年に法人化されて

からこれまでの 6 年間に 3000 件以上のいじめ相談にのってきました。多くの経験からのお話でしたので説得力がありました。いじめ対策の基本は、①被害者の苦しみを理解する、②対処法のスキルを持つ（特に教師）、③いじめを許さない校風を、の 3 つです。最大の問題は教師（教育委員会）の姿勢であり、「加害者にも人権がある」とか「いじめられる側本人や家族にも問題がある」などと逃げている場合が多い。被害者が「いじめられた」と言えば「いじめ」なのである（いじめの 99.1% は学校で起きている）。現代のいじめは蔓延している（2007 年の埼玉県の調査では、いじめられた経験がある子が 37.9%、いじめた経験がある子が 35.6%、このうちの 60% が犯罪者になったという報告もある。今、いじめられている子が 4.3%）。精神的いじめ（言葉によるいじめや無視）が中心であり、いじめの理由は「面白い」からが 77% であり、次が「はらいせ」であった。いじめ対処の原則は、早期発見・早期解決であるが、①被害者の保護、②いじめを止める、③加害者の指導（1：1 の指導が原則、叱ると謝罪、毅然とした指導を。加害者が複数の時も 1：1 で同時刻に別々に面談を行う。）、④被害者・加害者の心のケア、⑤再発防止、である。教師に期待する対処法は、①いじめの訴えを聞く、②校長先生

に報告、③いじめ対応チームを招集、④迅速な情報収集、⑤いじめを止める、⑥加害者に反省と謝罪をさせる（その場では謝罪をさせず、1 週間後にさせる）。⑦加害者・被害者の心のケア、⑧いじめは絶対許さない宣言、である。逆に糾弾や報復を招く例として挙げているのは、「話し合い」：リードできる教師がほとんどいない。いじめられた子の 9 割は「話し合い」の翌日から不登校になる。「全体指導」：クラス・学校全体への注意は報復につながる。「話を聞く」：いじめられている子の放置につながる。以上、「話し合い」「全体指導」「話を聞く」は解決につながるどころか、状況を悪化させることがほとんどであるのでやってはいけないと。最後に、「いじめ防止研修プログラム」の策定、実施の義務化。「いじめ隠蔽」に対する罰則規定制定に期待すると述べて講演を結びました。

午後は、今日の学校保健の課題—健康診断を中心に—のシンポジウムが行われました。①学校保健安全法と学校保健の課題、②学校心臓病検診の現状と課題、③学校腎臓病検診の現状と課題、④学校検診と発達への対応、⑤不登校児の健診の現状と課題、⑥学校健診における歯科の現状と課題、⑦学校健診における聴覚・言語検診の現状と課題、であります。紙面の関係からまたの機会に報告させていただきます。

新入会員の紹介



氏名：佐藤 陽子

生年月日：昭和 54 年 7 月 18 日

生まれた所：東京都 育った所：鶴岡市

勤務先・診療科目：協立病院 内科・循環器科

出身校：秋田大学

趣味・特技：ショッピング

鶴岡地区医師会員の皆さんへ一言：高校卒業まで過ごした鶴岡に帰って来ました。

子育てと仕事を両立させて頑張りたいと思います。
どうぞよろしく願います。

三井盾夫先生 産科医療功労者厚生労働大臣表彰 おめでとうございます



産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞して



私事 1 月 22 日、厚生労働省で産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞いたしました。

調べてみると、産科医療功労者に対する表彰は平成 21 年からで、極く最近からのようです。いわゆる少子化に当たり、分娩に携わり少しでも安全に赤ちゃんを生んでもらうことに長年従事していただ褒美ということのようです。少子化の原因はいくつかありますが、赤ちゃんを生んでも経済的な余裕をもって育児ができないことにあります。そこで子供手当なるものが支給された訳ですが、これが微々たるもので、これに対しても「お金を出せば良いものでない」などという評論家なるものがいたりして。高齢者に対しては随分と前から多額のお金が使われているのに、何故赤ちゃんには少ないかという、法律を作るのは政治家で、政治家にとって 1 番おいしいのは「一票」です。じいさん、ばあさんはどんなに年をとっても「一票」です。しかし、赤ちゃんが「一票」になるのは「20 年後」です。

私は常日頃、女性はなるべく早く結婚して（若い女性ほど良い子を生めます）子作りをして、その間育児に専念して最後の子供が幼稚園へ上がって、手がかからなくなったら元の職場へ、元の地位に、元の給料で復帰すべきと考えます。

ともあれ、今までたくさんの方々の方々の応援を得てここまで仕事をして、今回このような表彰を受け、これまで多くの方に支えて頂いてたどり着きました。誠に Lucky な人生でした。今後この Lucky をどこまで続けて行けるか、国を支える健康な赤ちゃんの誕生にかかわっていけるか努力したいと思います。

平成 25 年 2 月



医療法人なごみ会

産婦人科・小児科 三井病院

三井 盾夫



期 日：平成 25 年 3 月 1 日(金) 13：30～
場 所：医師会館 3 階講堂

第53回鶴岡准看護学院卒業証書授与式

ご来賓・所属病院の先生方、保護者の皆様並びに運営委員の先生方、多くの皆様にご臨席いただき、25名の卒業生が看護の道へ歩み出しました。皆様に支えていただき、心より感謝申し上げます。

答辞よりの抜粋

卒業生総代 田中 真紀

准看護師を目指し固い決意で学院の門をくぐりました。それぞれ人生経験の異なる者同士が同じ教室で学ぶことに、入学当初は戸惑いを感じていました。しかし、同じ目的を持つ者同士、年の差を超えてお互いを励ましあい、悩みを分かち合い乗り越えることができました。臨地実習では患者様を理解しどのような看護を行えばよいのか、毎日が勉強と反省の日々でした。満足にできない自分に不甲斐なさを感じ涙することもありました。患者様は知識も技術も未熟な私たちを受け入れてくださり、幾度となく『有難う』と言葉をかけてくださいました。私たちを気遣ってくださる患者様の存在にどれだけ支えられたことでしょうか。看護師からの指導や助言、先生方の指導に支えられ、頑張ることができました。共に笑い、共に泣き、時にはぶつかり合った仲間は大きな財産です。

4月、桜のつぼみが膨らむ頃私たちは新しい道を歩み始めます。これから先、試練や困難にぶつかっても今日の気持ちや仲間を思い出し、今後も精進していきたいと思えます。

本間 瑞樹

入学して初めのころは高校生活の延長上でした。実習が開始となった時は不安も大きく、全員が基礎看護実習を終えることができた時は



ホッとしました。2年生になると行事の企画・運営、実習と忙しい日々でしたが、皆で協力することができました。HR委員を行ったおかげで、皆をまとめることの大変さ、優先順位、今何が必要なのかを考えることができ、皆の協力があり最後まで行うことができたことは本当に感謝しています。先生方にも迷惑をかけましたが、先生方のおかげで卒業することができました。学んだことを忘れず、日々前進していけるよう頑張ります。2年間本当に有難うございました。

菅原 なつ子

私は社会人を経験してからの入学でしたので、何十年ぶりかの学生生活は挑戦でもあり、新鮮な気持ちでした。2年間、無事に過ごせればと思っていたのですが、同じ目標に進んでいくためには、一人一人が自分の役割を果たさなければならず、目標を達成することができないのだと実感しました。年齢も個性もばらばらだった皆が、今、それぞれの道への第一歩を歩み始めました。2年間で出会った多くの患者様や看護師の方々、学院で日々導いていただいた教務の先生方への感謝の気持ちを忘れずに、看護の道を歩んでいきたいと思えます。



札幌雪祭り

木根淵医院 木根淵 智子

平成25年2月9日(出)から2泊3日で北海道の札幌雪祭りに行ってきました。午後の診療が終了後、17時55分の羽田行きの飛行機に乗り、羽田から千歳空港に向かいました。庄内に在住で、飛行機を利用する方なら誰でも一度は経験があると思うのが、吹雪による飛行機の遅延という事態です。羽田到着遅延のため、予定していた飛行機には乗れませんでした。運良く次の便の羽田一千歳行きにキャンセルが出て乗れたため、夜11時頃には千歳に着き、最終の電車で札幌に向かいました。

乗り継ぎの途中で夕ご飯を食べようと予定していましたが、時間がなく、札幌に深夜着いたときは、お腹がぺこぺこでした。

札幌ホテルに到着すると友人が夕食を食べず

に、待っていてくれたため、そこから遅い夕食を食べに行きました。深夜まで待っていてくれた友人に感謝です。

到着1日目の食事は「焼き鳥SIRO」で遅い夕食です。遅く来た客に店主はいやな顔をせず、迎えてくれました。活蛸焼き(ゆずごしょうぞえ)からはじまり、最後はブルーチーズチャーハンをいただきました。写真を撮らず残念です。

つい長居して最後は私達だけになったように思います。たくさん食べ、満ち足りた気分でホテルに帰宅、その日はそのまますぐに就寝しました。

翌日の朝食はホテルで軽く頂き、その後は雪祭りにでかけました。晴天ではありましたが、とても寒いです。



大雪像 伊勢神話への道



大雪像 ちびまる子ちゃん



大氷像 中正記念堂(昼)



大氷像 中正記念堂(夜のライトアップ)

友人は関西の方なので、ホテルから出る前に「雪が降った時のために、傘を持っていった方がいいかな？」と。庄内では雪が降った時、地吹雪になる事が多いので、傘をさす習慣はないように思いますが、他の雪国ではどうなのでしょう？

タクシーに乗ると、道路は除雪をもちろんでありますが、雪が積もった状態で、雪でできた凹凸でとても激しく揺れます。ついタクシーの中で「庄内のように道路に水を出せばいいのに…」とつぶやくと、聞き逃さなかった運転手さんがすかさず「凍りますから」とご返答。そうですね。

雪祭りの会場は、大通り公園 西 1 丁目から西 12 丁目までですので、一周し雪像を見て廻り終える頃には、すっかり体が冷えきってしまったため、体を温めに温泉に入りに行きました。

温泉に入り、体も温まったため、もう一度雪祭り会場にチャレンジです。今度は夜間のライトアップされた雪像を見に行きました。

昼の雪像に比べるとやはり夜間のライトアップされた雪像はとても美しく、いくつかご紹介します。大雪像・伊勢神話への道、大氷像・中正記念堂（台湾）昼と夜のライトアップ、大雪像・ちびまる子ちゃんなどです。

また年に 1 回公開される、という札幌テレビ塔の下り階段から見た雪祭りもやはりとても美しかったです。

そして夕ご飯は今回の旅行で最も楽しみにしていた「鯧金」さんです。おまかせコースで頼みました。つまみだけで 11 種類も！ 少量で一品ずつ出してくれます。出てくるつまみは、店主が産地まできちんと説明して下さいますが、覚えきれず、きちんと紹介できなくて本当に残念です。握りもどれもこれも素晴らしかったのですが、その中でつまみの写真をいくつか紹介致します。

真蛸のやわらか煮は、本当に軟らかく、口のなかですんなりくずれていき、蛸の味がひろがります。ナマコの卵巣の茶碗蒸しはシンプルな味わいです。鱈の生ハム風は燻しているそう



真蛸のやわらか煮



ナマコの卵巣の茶碗蒸し



鱈の生ハム風

で、口一杯に燻製の香りが広がります。その他、平目の昆布締め、ホタテの海苔巻きは見た目もとても楽しかったです。

今年、北海道は雪が多く、住んでいる方はさぞご苦労をなさっていると思います。

ようやく暖かくなってきましたので、美味しい食事と美しい雪祭りを開催して下さった北海道の方々が一刻も早く雪から開放されるのを心よりお祈りしています。

特別寄稿

地霊の生みし人々(9) — 小関三英(下) —

黒羽根整形外科 黒羽根 洋司

三英は46才にしてはじめて、俸禄を岸和田藩から受けることで、地位も生活も一応の安定をみた。江戸に出た庄内の人故郷の誇りとして三英を訪ねることも多くなる。懸案のナポレオン伝の翻訳に取り掛かるのもこの頃からである。

子母沢寛の『おとこ鷹』に、主人公・勝麟太郎(後の海舟)が三英の本を書物屋で手にする場面がある。「天保八年出羽庄内小関三英が訳したリンデ氏の『那波列翁伝』を開くと、じっと棒立ちのまま、物の小半時も吸い込まれるように読んでいる」麟太郎は、とうとうしゃがんで終わったとある。これなどは、三英の幕末における思想啓蒙的な影響力を示す一端だろう。

仕官から三年後、49才となった三英は、幕府天文台の蘭書翻訳方を命ぜられる。蘭学者としては最高の栄誉であり、いかに彼の語学力が卓越していたかを物語る。しかし、世間的な栄進は、三英を書斎から外へ出て世の蒙を啓く運動へと運び始める。

— 尚齒会 —

三河国田原藩年寄末席(家老職)の渡辺華山は破綻をしめしていた藩の財政の建て直しと、藩の海岸掛りとして海防に重大な関心を寄せていた。適切な判断力を得るためには、世界情勢について正確な知識が必要であった。それにはオランダを通じて日本に入ってきた洋書を読むことなのだが、語学に関して華山は、乏しい知識しか持っていなかった。そこで彼はオランダ語の才に恵まれた高野長英と小関三英に蘭書の翻訳を依頼したのである。

優れた理解力をもつ華山は世界情勢の知識をふやし、海防について独自の理論を持つようになった。長英と三英は華山の求めに応じて新しい知識の提供につとめた。



小関三英
(天明7年6月11日—天保10年5月17日)

華山を中心とした洋学研究のグループは、みずからの結社の名前を蛮学社中と呼んだ。これとは別の学問研究団体が紀州藩の儒者遠藤勝助を中心にして結成され、尚齒会と名のつた。齒(年齢)を尊ぶ敬老会という意味で、華山らのグループも出席して、西洋事情はもちろん、国内の諸問題が広範に研究・議論された。川路聖謨(勘定吟味役)、江川英龍(代官)などの幕臣や幕府、高松藩、二本松藩などの儒官ら広範な人びとで構成された。

華山は彼らに対して、西洋に学ぶものが多く、科学技術とそれをうみ出した合理精神を日本にもうえつけなければならぬ、と説いた。彼の主張は、必然的に幕府を支える封建社会への批判となり、世界情勢の分析能力にかけた幕府上層部に対する不信へとつながった。

— モリソン号事件 —

天保8年(1837)安房国大房沖に3本マットの大型異国船が姿をあらわす。アメリカのオリファント貿易会社所属・モリソン号である。浦賀沖にすすみ、さらに陸地に近づくこの船の目的は、マカオで救助保護された漂流民をおくり

とどけ、それを機会に日本との交流を求めることであった。ところが、12年前に幕府は異国船が接近してきた折には理由を問わず打ち払うように命じていた。

以下、実況風に記す。浦賀奉行は警備の者にモリソン号に発砲を命ずる。船は舳先^{へさき}をめぐらせて沖に退く。さらに日本側は砲撃の構えくさず、モリソン号は日本列島沿いに南下。薩摩国の鹿児島湾口に停泊するも、薩摩藩から砲撃をあびせられ、漂流民をのせたまま去った。これがいわゆるモリソン号事件である。

4ヵ月後、ある秘密情報が尚齒会の例会で明らかにされた。ふたたびモリソン号が来航した際の幕府の対策で、前年と同じように容赦なく砲撃をあびせるというものであった。長英は顔色を変え、華山ははげしい憤りをしめした。散会后、渡辺華山は幕臣に対してその決定は危険であると強く訴え、さらに筆をとって『慎機論』にまとめた。幕府の儒官から「異国の学問に通じ、異国の事情を知る第一の人物」とまで評された高野長英は『夢物語』を書いた。舞台は悲劇へと回っていく。

－ 蛮社の獄 －

モリソン号事件をきっかけに、幕府内でも朱子学派＝守旧派と蘭学派＝開明派の派閥対立が激化していた。前者の急先鋒である鳥居耀蔵は儒学の名家に生まれ、洋学研究者たちに異常とも思える憎悪を抱いていた。無人島に渡航する輩^{やから}をそそのかしたという告訴状もつけ、鳥居は大粛清を敢行する。近代洋学史上最大の弾圧事件・蛮社の獄である。

天保10年（1839）5月14日、華山は北町奉行所へ呼び出され、投獄された。華山捕わるの報は親しい者たちにはげしい動揺を与えた。華山のためにイエス伝を翻訳していた三英は、キリスト禁制にふれて厳しく処罰されると推測した。さらに彼は喘息持ちで毎夜、阿片酒^{あへん}を飲まなければ眠れぬ身であった。投獄されればたちまち獄死すると悲観した三英は長屋の自室にて三稜針で頸動脈を切って自刃する。天保10年5

月17日、三英享年53、翌日、高野長英が自首して永牢^{ながろう}となる。三英没後2年に華山が自刃し、長英は脱獄し三英没後11年目に捕方に襲われて死去する。明治の新時代まであとわずか、「夜明け前」の悲劇であった。

－ 龍岩寺 －

小関三英は東京都渋谷区青山の龍岩寺にひっそりと眠る。生前、三英は高野長英と「死というものは年長、年少の別なく訪れるもので、私かあなたのいずれか先に死んだ時には、生き残った方が碑文を書こう」と約束していたという。だが、墓碑には小関三英先生の墓とあり、側面に晩年養子に迎えた高彦の名が記されているだけである。碑文はもとより建立月日すらない墓は、葬られる人そのもののような清潔さが漂っている。それは早く生まれすぎた天才の生涯を静かに語っている。



墓碑
(龍岩寺)

－ 文献 －

1. 小関三英伝 一幕末一思想家の生涯－
杉本つとむ 敬文堂出版部刊（昭和45年）
2. 小関三英
半谷二郎 旺史社（1987年）



期 日：平成 25 年 3 月 2 日 (土)～3 日 (日)
場 所：湯殿山スキー場

平成 24 年度 スキー同好会合宿報告

3 月 2、3 日 (土、日) 恒例の医師会スキー合宿が行われました。15 名の参加、今年も例年通り湯殿山スキー場で、宿泊は田麦荘になりました。

9 時に集合し出発しましたが前日から吹き始めた暴風雪の予報もきっちりの中し台風並みの強風の中、湯殿山スキー場へと向かった。そして宿泊先の田麦荘に到着。そこに待っていたのは強風の為リフト運休、そして本日スキー場クローズの知らせだった。スキー合宿始まって以来の事態。

「プシュッ！」

リフト運休の知らせを受け部屋に響く缶ビールを開ける音。まだ 10 時前。完全に路線変更を決め、午前中のビールは格別と 1 本 2 本、そして 3 本と進める人、なんでも鑑定団を見ながらこたつでごろごろ寛ぐ人、読書する人、様々なスタイルで非現実的な土曜日の午前中を過ごしはじめた。まてまて、スキー合宿だぞ。

天候はどうあれ折角来たのだからまずスキー場へ。昼近くに田麦荘より出して頂いたマイクロバスに乗り込みスキー場へ。積雪 5 m 超。大雪だった昨年を超える積雪であった。強風によりその場で左右に揺れているだけのリフト。クラブハウスに到着、「生ビールをピッチャーで」昼間の生は格別と完全にスキー合宿から〇ール

合宿へ変わりつつある。人のいないゲレンデを見ながら中ジョッキを進める。しかしここまで来た以上滑らないで帰るわけにはいかない。リフトが動かないなら自力で登ればいけないか。スキーを担ぎ、ボードは抱え、山頂側へ向かって吹く暴風雪の中正面ゲレンデのリフト降り場付近をめざした。登り始めて間もなく視界不良でクラブハウスは見えなくなり吹雪と脚にくる乳酸との戦い、途中何度か挫折しかけたがなんとか目的地まで到着。ぼったり倒れこみ大の字に。大自然の中での人間の無力さと、リフトのありがたみを感じ貴重の 1 本を滑り降りた。圧雪もされていないありのままのゲレンデを滑るのは、それはそれでとても素晴らしいものだった。

多い人で 2 回滑り、昼食、アルコール系は堪能し 14 時過ぎにスキー場をあとにした。そして夜の宴会へ。今度は瓶ビールを飲みながら滑れなかった鬱憤を晴らすかのように大盛り上がり。N 係長の「たそがれマイラブ」「五番街のマリーへ」等の熱唱によるカラオケオンステージでさらにヒートアップ。雪深い田麦侯の地に柔らかい美声が響きわたり夜が更けていきました。

翌朝、風も収まり一晩で積雪 30 センチ。あまりの積雪で車が 1 台動けなくなりみんなで押したり引いたりなんとか出すことができました。どうしても滑りたい 6 名だけがスキー場に向かい残りの方は帰路に着きました。前日からの積雪で雪質は最高によく、3 月とは思えない抜群のコンディションで滑ることができ本来の目的をなんとか達成してきました。

年度末の忙しい所準備をして頂いた幹事のみなさんありがとうございました。

来年こそ天候に恵まれるように。

事業推進課 企画調整係 阿部 勇樹





編 集 後 記

2月19日、グランド エル・サンにて三井盾夫先生の産科医療功労者厚生労働大臣表彰の受賞祝賀会が行われました。長年にも及ぶ地域医療への貢献や、乳幼児突然死などに対する新しい取り組みが評価されての表彰であります。鶴岡地区医師会はもとより、地区の産婦人科医にとっても大変うれしく、元気をいただけた受賞でした。今後ますますのご活躍を願っております。大変おめでとうございます。

3月1日、鶴岡准看護学院卒業証書授与式が行われました。いつもこの時期、瞳を輝かせながら飛び立ってゆく若者はとてもすがすがしいものです。初心を忘れず、がんばっていけるようエールを送りたいと思います。

三師会では、食べることは生きる原点で、口から食事が摂取できるようになると身体能力が改善されるため、口腔ケアでの連携がとても大切になるとの報告をしていただきました。麻痺のために自分で歩けない老人が、入れ歯にして自分で咀嚼できるようになったら、自立歩行が可能になった動画をみておどろきました。

もの忘れ相談医研修会では、65歳以上で10人に1人という高い確率で起こる認知症に関して、早期のうちに家族、もの忘れ相談医、主治医、介護や専門医とどのように連携して、どのように取り組んでいくかの提言をいただきました。

少しずつ暖かくなってきました。たんぽぽの花咲く春もうすぐです。気持ちも春間近といったところですか。

(斎藤 高志)

編集委員：伊藤 茂彦・福原 晶子・石原 良・中村 秀幸・斎藤 高志・今立 明宏

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

URL <http://www.tsuruoka-med.jp>